

特別支援学校小学部生活科の授業実践

～单元「みだしなみ名人になろう」・「ハンガー名人になろう」の授業開発・実践～

小田 貴史^{*}・八幡 彩子^{**}・竹中 伸夫^{**}

Practice of Lessons on Life Environment Study for the Elementary School Section,
Special Support School Attached to Faculty of Education, Kumamoto University
:Developing Lessons of the Units “Let’s be a master of keeping yourself neat!” and
“Let’s be a master of using hangers well!”

Takafumi ODA, Ayako YAHATA-TANIGUCHI and Nobuo TAKENAKA

はじめに

熊本大学教育学部附属特別支援学校小学部の生活科は、従来から生活単元学習や日常生活の指導といった教科等を合わせた指導に加え、平成29年度から一定期間に集中して単元を実施する「期間集中型」と単発で実施する「コマ取り型」による授業を実施している。「期間集中型」では、1週間から数週間にわたって、同一単元の授業をほぼ毎日連続して実施し、公共交通機関や公共の施設の利用の仕方やマナー、買い物、調理など日常的に活用場面の少ない事柄について、活用場面も含めた単元構成で授業を行っている。これに対し、「コマ取り型」では、1週間に1回（1コマ）の授業時間を設定して授業を実施し、基本的生活習慣に関連することなどを中心に、日常的に活用場面が多く、学習したことを即時的に生かしやすい内容を扱っている。

このように、題材に応じて、カリキュラムにおける単元の配置の仕方を工夫することで、生活科の学習と生活単元学習や日常生活の指導等とを有機的に関連づけ、効率的に学習の成果が得られるのではないかと考え、実践してきた。そうすることで、学習したことを即時的に日常生活に生かすやすくなり、スキルの習得だけでなく、教材の「意味」や「理由」への気づきや実感などの深い学びが得られる学習として組織できるのではないかと考えたからである。

平成29年度は、「コマ取り型」で単元「ふくをたたもう ふくをかたづけよう」の生活科の授業を金曜日に設定し、学習したことを家庭での手伝い等に生かすようにした。そこでは、学校で学んだ「たたむこと、片付けること」に家庭で取り組もう

とする姿が見られ、一定の成果があった。しかしながら、さまざまな家庭の実情の中で実践を設定することは、授業で扱った内容が断片的になりやすく、学習した内容を理解して家庭で実践しているのか、学習の成果の詳細を把握しにくかった。

そこで、平成30年度は、「コマ取り型」の生活科の授業を、金曜日から月曜日に変更し、学習したことを活用する場を日常生活の指導を初めとした学校生活全体とすることで、学習内容の理解や定着、般化等の状況を教師が把握できるようにした。学校生活における児童の状況を教師が見極めた上で、家庭実践につなげることにより、確実な日常生活・家庭生活への般化が期待できるのではないかと考えたからである。

本稿では、このような意図により実施した小学部生活科の単元「みだしなみ名人になろう」「ハンガー名人になろう」の授業実践とその成果について紹介する。

研究の目的と方法

本研究では、小学部生活科「みだしなみ名人になろう」「ハンガー名人になろう」の授業開発と実践をとおして、単元構成や授業展開、また教材教具や教師の発問など、日常生活場面における子供の姿の変容を迫る主体的・対話的で深い学びを実現させるための具体的な工夫点について検討することを目的とする。

研究の方法は、小田が開発した2つの単元の授業を、熊本大学教育学部附属特別支援学校小学部1組（小学1年生3人、2年生3人；男子4人、女子2人）で実施し、効果的であった工夫点について抽出しながら検討した。授業の有効性の検討にあたっては、八幡及び竹中との共同研究により、生活科とい

* 熊本大学教育学部附属特別支援学校

** 熊本大学大学院教育学研究科

う教科の特質や生活科で育む固有の見方・考え方などをふまえ、専門的な視点から検討を行い、授業づくりの要点や工夫点を整理した。あわせて、本校で授業後に短時間で実施する授業研究会（S 授業研）において用いる授業評価シート（S シート）の評価項目（表 1）に沿った評価を実施する。さらに、児童一人一人に授業目標に即した個々の目標を設定し、行動観察による評価を行い、授業の有効性について検討した。

授業実施日は、単元「みだしなみ名人になろう」は平成30年12月10日、単元「ハンガー名人になろう」は同12月17日である。

表 1 S シートの評価項目

評価内容		
授業の内容・構成	児童生徒の実態を踏まえた本時のねらい・目標設定	
	学習内容	興味関心(意欲、動機付け等)
		課題意識(葛藤、危機、必然、責任感等)
		振り返り(成就感、期待感等)
		思考、比較、判断等
		表現、意思伝達等
		他学習・場面等との関連
		難易度
	授業構成	学習量、活動量、時間配分
		発展性、まとめ
高学年設定・教科書	学習環境	空間、配置、雰囲気等
	教材・提示	興味関心、難易度、自由度
		対象、操作性、量
		提示方法
	学習集団の規模や編成	
教師の姿勢	子どもへの配慮	健康面、安全面、雰囲気、言葉遣い、気付き等
	指示・説明等の内容・方法	口頭、教材、モデル等
	指導のバランス、タイミング、内容	全体理解、個別対応等
	気付きや思考、イメージ化を促す働きかけ	
	教師間の連携	
	子どもの理解、努力、態度、成果等の評価(賞賛等)	

結果と考察

1. 授業開発について

1) 題材設定の理由

児童が自立した生活をする上で、基本的生活習慣に関する知識及び技能や態度などを確実に身につけ習慣化していくことは重要である。中でも身だしなみを整えたり、自分の衣服を片付けたりするなど自分自身の身の回りのことができるようになることは、基本的生活習慣の確立及び将来の自立した生活に向けての第一歩となる。

そこで本題材では、身だしなみの整え方やハンガーの使い方の学習をとおして、技能に加え、良さや便

利さなどに気づき、自分から身だしなみを整えようとしたり、丁寧にハンガーに衣服をかけようとしたりする習慣や態度の育成につなげていくことをねらいとするものである。そしてこの題材で学んだことを活用する場として日々の学校生活の中で繰り返し取り組むことで、学習したことの般化をはかることもねらいとした。

また、本題材での活動が、よりよい生活の実現に向けて、思考や表現を繰り返したり、できることが増えたりと自立し生活を豊かにするための資質能力の育成につながると考えた。

2) 児童の実態

授業実践を行う学級の児童の実態は、自分から気付いて身だしなみを整えようとする児童は少なく、教師からの声かけや支援を受けて整える児童が多い。ハンガーを扱うことに対しては、多くが自分一人で行った経験が少なく、ハンガーそのものの名称や用途など基本的なことから学習する必要がある児童も在籍している。

ほとんどの児童は、教師の一方的な言葉だけによる説明への理解が難しく、飽きて集中できない傾向にあるが、モニターに映された動画や写真、スライド、目の前で実践へ興味を持って注目することができる。また、提示された問いかけに対して、自分の考えを言葉で詳しく説明をすることができる児童は少ないが、単語や指さしなどで、正しい方や好きな方を選択して自分の考えを伝えたり、行動で表現したり、友だちや教師の様子を見て真似たりすることができる。

3) 授業開発の視点

授業開発にあたっては、平成29年度の小田²⁾の生活科における授業実践において効果があった工夫点を取り入れ、学年の異なる本実践の対象学級においても有効か、検討することとした。その概要は以下の通りである。

(1) 授業のストーリー

「主体的で対話的で深い学び」の実現のための授業展開（授業のストーリー）を以下のように設定した。

- ①前時に学んだことを覚えているかを確認し、既習事項を本時の学びにつなげるための「前時の振り返り」
- ②児童が自身の生活場面に置き換えやすい課題を本時のめあてとして提示し、「どうしてかな、やってみよう」と学習意欲の向上につなげる「本時のめあて～課題の提示～」

- ③自分の考えを表明したり、友達の発表を見聞きしたりする「考える時間～一人でみんなで～」
- ④実際に考えたことを行ってみてできたかできなかったかに気づく「考えの検証」
- ⑤実際に正しい方法に取り組んだり、知識を得たりする「技能の習得・知識の習得」
- ⑥本時の学びを振り返り、自己評価をしたり、達成感を味わったりすると共に、日頃の生活に生かそうとする態度の育ちを促すための「本時の振り返り」

(2) 課題提示の仕方

児童が動画や写真、スライドに興味をもちやすいという実態を生かして、課題に興味を持ち、かつ課題となる点に気づきやすいよう、モニターを用いて視覚的に示した教材を活用する。動画等には、身近な教師が出演し、困惑している様子や誤った行動をする様子を見せることで、思考のきっかけになるようにする。

また、課題を示す動画のみならず、正しい行動を示す動画も提示することで、比較や気づきを促すようにする。

(3) キーワード

授業のポイントとなることが印象に残りやすく、わかりやすいよう、リズムに乗せて口ずさみやすいようなキーワードを設定する。

(4) 授業のゴール

児童が、意欲を持って主体的に授業に取り組めるよう、本時のめあてを「〇〇名人」とし、授業の最後に「〇〇名人」に認定し、「名人メダル」を獲得する場面を設定する。

(5) 比較

児童が課題を見比べて、良いところや問題点に気づ

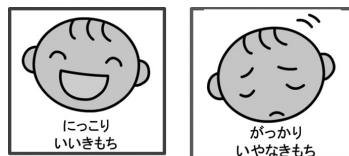


図1 選択枝のカード

きやすいよう、良い場面とそうでない場面の動画や写真、イラストを提示して、比較しやすいようにする。考えを表現しやすいよう、気づいたところにはシールを貼るようにする。

(6) 考えの表出

言葉による詳しい説明が難しい児童が多いため、気持ちを表現しやすいように、イラストを提示する。

(7) キャラクター

児童が動画等を用いた課題や解説に興味を持ち、注意が向きやすいよう、授業のシンボリックキャラクターとして指人形の「せいかつ



写真1

せいかつくん

くん」を登場させる。

(8) 発表の順番

友だちの考えを模倣したり参考にしたりしやすいよう、児童の発表の順番は、モデルとなる児童から行うようにする。

4) 開発した授業の概要

上記の児童の実態、授業開発の視点に基づき開発した授業の概要について、Sシートの形式で示す。

(表2・表3)

表2 単元①「みだしなみ名人になろう」の授業概要

Sシート【ベースシート①】					
日時	12月10日	教科等名	生活	MT	小田
本時の内容					
みだしなみ めいじんになろう					
本時のねらい(知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度の観点から)					
着替え後にはみだしなみを整えることを知る みだしなみを自ら整えようとする					
授業の流れ					
学習活動					
本時のめあて	課題の動画を見る(良い場合と悪い場合の2種類)。				
考える時間	2種類の動画を見比べ、それぞれに対してどんな気持ちを持ったかを表現する。 ・悪いところにシールを貼る。 ・理由を述べる。				
考えの検証	どのようにすれば良いかマネキンを用いてやってみる。 ・一人のできる児童→真似して取り組んでほしい児童				
正解の提示	正しい身だしなみの整え方の動画を見る 身だしなみのキーワードを知る ・身だしなみを整えるのに役立つキーワードを唱える				
技能の習得	実際に着替えをする ・体操服→通学服に着替える。				
振り返り	振り返りをする ・名人メダルをもらう				

表3 単元②「ハンガー名人になろう」の授業概要

Sシート【ベースシート①】					
日時	12月17日	教科等名	生活	MT	小田
本時の内容					
ハンガーめいじんになろう					
本時のねらい(知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度の観点から)					
ハンガーの使い方を知る ハンガーを用いた方が良いことに気づく					
授業の流れ					
学習活動					
前時の振り返り	「みだしなみめいじん」のふりかえり ・自分の授業後の様子の写真を見る				
知識の習得	ハンガーの名前を知る				
本時のめあて	3種類の課題動画を見る(良い場合1種類と悪い場合の2種類)。				
考える時間	3種類の動画を見比べ、それぞれに対してどんな気持ちを持ったかを表現する。 ・悪いところに×印をつける ・理由を述べる				
正解の提示	ハンガーの使い方の動画を見る キーワードを確認する ・「せいかつくん」が教えてくれるキーワードを唱える				
技能の習得	実際にハンガーにかけてみる 教師と上着を着ることを競う ・ハンガーを使うことが良いことを実感する				
振り返り	振り返りをする ・名人メダルをもらう				

2. 授業時における児童の学びの様子

ここでは、小田の授業を観察（八幡）した際の気づき（よかった点◎）をもとに、授業の実際を紹介する。

1) 単元①「みだしなみ名人になろう」

(1) 導入（表2の「学習の流れ」における「本時のめあて」の段階、以下同様）

◎パワーポイントのスライド「〇〇めいじんになろう」の〇〇を考えさせる導入が効果的だった。

◎「せいかつくん」の登場により、児童は動画に注目できていた。

◎学習のゴールの提示：「みだしなみめいじん」になるとメダルがもらえる、という学習のゴールが示され、手作りのすてきなメダルが提示されたことにより、学習への動機づけが促されていた。

(2) ビデオを見てみよう（「考える時間」）

◎ビデオでは、授業者の小田が更衣室のカーテンの中に入るところから始まっており、「カーテンの中に何があるんだろう!」というワクワク感が持てる始まりとなっている。

・カーテンに入る前後の小田の変化に、ビデオを1回見ただけでは、児童は気づかない。

◎そこで、2回目のビデオ視聴の際は、「違いはどこかな?」と注目させて視聴させたことにより、着替え前後の変化に気づくことができた。

(3) 着替えた後の状況や問題点に気づく場面（同上）

◎ビデオの着替えた後の様子を、写真①（きちんとした着替えができていない状態）と写真②（問題点のある着替えの状態）にまとめ直して比較させる、という場面設定は（効果的）だった。

◎また、上記2枚の写真と関連づけて、「にっこり／いい気持ち」「がっかり／いやな気持ち」という「感覚」で「表現」する。本校の児童の実態をふまえると有効であった。この時の、2枚の写真の違いに気づかせるための授業者の支援も的確であった。

(4) 2枚の写真の違いに関する児童の気づき・表現（問題発見）の様子（この時は4人の児童が発言）

(B 児) 写真②のえりもとのボタンを指さし、気になることを示すことができた。

(F 児) 写真②のわきから胸のしわを指さし、シールが貼れた。

(A 児) 写真②のえりもとのボタンにシールを貼れた。

(D 児) 写真②のズボンのポケットから上衣のすそのあたりにシールを貼れた。

(5) みだしなみの整え方を知る（問題解決の方法を理解する段階）

◎マネキンが登場し、①えりを曲げる、②ボタンを留める、③下着をズボンに入れる、④かかとは踏まない、という4つのポイントがわかりやすく示された。

(6) やってみる（「技能の習得」）

第1段階：A 児が授業者とともに、マネキンを使って、4つのポイントをやってみることができた。

第2段階：児童それぞれ各自の服で、体育服を標準服に着替えることにチャレンジ。6人の児童のうち、4人の児童が4つのポイントすべて合格であった。E 児はすそ入れとかかたが合格、F 児はすそ入れ以外は合格した。

(7) 授業のまとめ（「振り返り」）

◎全員の児童を「めいじんさん」と認定し、メダルの授与が行われ、とても喜んでいて児童の姿が印象的であった。

◎本授業の評価 1段階(イ)はほぼ全員が概ね達成したと判断できる。

2) 単元②「ハンガー名人になろう」

(1) 前時の振り返り

◎前時にも使用し、学習のポイントを端的に示すイラストが示されたので、思い出しやすかったと思われる。

◎1年生3人の前時の学習の様子がモニターに映し出されると、C 児は自分の写真を見て手をたたいて喜んでいて。

(2) 本時の学習

◎「せいかつくん」の登場。繰り返し同じキャラクターが登場すると、一連の同一題材であることが意識づけられるように思われる。また、「〇〇めいじんになれたね」とせいかつくんに言ってもらえて、児童もうれしかったのではないかと考える。

・「ハンガー」という名称については、指名された3人の児童は答えられなかった。

(3) ビデオをみてみよう

・N 先生：ハンガーに丁寧に掛けられていたジャンパーをさっとスムーズに着る。

授業者：裏返ってかかっているジャンパーを着るのに手間取っている。着方が下手なのは、と思わせる演技。

U 先生：ハンガーではなく、ひきだしからジャンパーをとり出して着る。ちらばったものを拾い集めるのが大変そう。

(4) 3つのビデオ（写真）の違いに気づけたか？
△ここでは、授業者を含めて小学部1組の3人の担任が登場し、それぞれの着方を比較したが、3人の先生の力演にもかかわらず、3つの比較は難しかった。本授業のポイントであったが、何を問題点として気づかせるのか、明確にする必要があった。児童は、ビデオから取り出した3枚の写真に、問題点と思ったところにシールをたくさん貼っていたが、はたしてそれでよかったのか、確認が必要だったのでは。

◎写真②と③の下に書かれている児童のつぶやき「ぐちゃぐちゃ」などの言葉が実感がこもっていてよいと思った。

(5) 問題解決方法の理解（ハンガーの使い方、服のかけ方）

◎ビデオを見ながらポイント（①脱いだ服は形を整える ②ハンガーに掛ける（袖を1つずつハンガーに入れる、肩を持って、ハンガーをかける））を確認する。このとき、ウッドブロックのリズムに乗ってやってみるのはわかりやすく、覚えやすい。

(6) やってみよう

◎6人の児童のうち、5人はビデオのポイント通りにできた。うち、A児はビデオにあった「寒いからジャンパーを着よう」という場面から模倣を始めており、ビデオの効果・印象づけが大きかったことが窺われた。また、E児は、ビデオにはなかったが、ジャンパーを机の上に置いて、ハンガーにかける、という使い方の工夫がみられた。D児は、着ていたものを裏返すところから始めており、より高い技能を持っていることが窺われた。C児は教師の支援のもとで、ハンガーを使うことができていた。

(7) ハンガーに掛けたものを実際に着てみて、うまくいくか、確認する段階

◎全員スムーズに着ることができていた。

(8) 実践の様子

◎B児、E児、F児のハンガーかけの様子はとても上手であった。

(9) 授業中の児童の行動の様子から見た評価

・教師の支援を要した児童（1人）が特別支援学校学習指導要領「生活科」における1段階（ア）、他の児童は1段階（イ）が達成できた。

3. 授業の工夫点は効果的であったか

以下、授業開発時に検討した授業の工夫点が有効であったか、授業者の視点も加えて考察する。

(1) 授業のストーリー

冒頭で写真やVTRを見ながら「○○だったよね」と前時の様子や日頃の様子を振り返って話したり、「今日は何の名人かな～」といった発言をしたりなど、前時や日頃との授業のつながりを感じ本時に対する期待感の芽生えが見られた。

また、授業の流れが一定であることで、展開への見通しが持て、集中して落ち着いて参加できる児童が増えてきた。

(2) 課題提示の仕方

動画を見ながら、子ども達が「先生だめだよ～」などの気づきを口々に言葉にする場面が見られた。授業のねらい、課題を引き込むことに有効だった。

(3) キーワード

リズムに乗せたフレーズは、子ども達の印象に残りやすい。授業場面以外の日常でも口ずさみながら取り組む姿も見られた。

<みだしなみ>

えりをまげる ボタンをとめる
したぎをいれる かかとはふまない

<ハンガー>

そでをいれる そでをいれる
かたをもって かけましょう

(4) 授業のゴール

「○○名人」を目指して、最後まで意欲的に取り組む姿が見られた。「学校でできたよ～」と「名人」になったことを自ら保護者に伝える児童も見られ、学校と家庭間で取組の共有ができた。

(5) 比較

イラストや写真を見比べ、シールを用いて「ここが×だね」など気づきを示す児童が見られた。



写真2 比較

(6) 考えの表出

「○」「×」だけでは、良いか悪いかの表明はできても、「なぜそう思うのか」といった問い掛けに対する解答は難しい実態があった。「にっこり」「がっかり」の気持ちに



写真3 考えの表出

焦点を当てた言葉やイラストを用いたことで自分の感じた思いに気づき、「ぐちゃぐちゃは、いやな気持ち」など言葉として表現することができた。

(7) キャラクター

キャラクター（せいかつくん）が考えのヒントをくれるので、子どもたちにとっては先生のような存在になっていたようだった。そのヒントやモデルが、児童が思考する上での参考になった。

(8) 発表の順番

友だちの様子を見ながら、「そうすればいいのか」と正しさに気づき、モデルにしながら発表する様子が見られた。

4. 評価について

ここでは、授業の効果を検討するために、児童の学習評価、授業実施後のS授業研における授業評価、授業実施前後の児童の様子の変化について述べる。

1) 学習の評価について

授業時の目標とは別に、児童それぞれの目標に対して、「◎：達成できた」「○：概ね達成できた」「△：達成できなかった」の3段階で評価した。結果は表4、表5に示す通り。

表4 単元①「みだしなみ名人になろう」の学習評価

氏名等	本時の目標	評価	特記事項
A児 1年	・みだしなみを整える場面がわかる。	◎	
	・気づいたことの理由を言葉で表現することができる。	◎	
B児 1年	・キーワードに沿ってみだしなみを整えることができる。	◎	
	・おかしいところにシールを貼ることができる。	◎	
C児 1年	・教師とみだしなみをととのえることができる。	◎	
	・自分からみだしなみを整えようとするすることができる。	◎	
D児 2年	・みだしなみを整える場面がわかる。	◎	
	・気づいたことの理由を言葉で表現することができる。	○	
E児 2年	・着替え後に自分からみだしなみを整えることができる。	◎	
	・おかしいところにシールを貼ることができる。	◎	
F児 2年	・みだしなみを整える場所がわかる。	○	
	・自分からみだしなみを整えようとするすることができる。	◎	

表5 単元②「ハンガー名人になろう」の学習評価

氏名等	本時の目標	評価	特記事項
A児 1年	・ハンガーを使った方が便利なのがわかる。	○	
	・動画を見比べ、おかしい理由を述べることができる。	○	
B児 1年	・上着は、ハンガーを使わなければならないことがわかる。	◎	
	・動画のおかしい場面に気づくことができる。	◎	
C児 1年	・ハンガーの使い方がわかる。	○	
	・ハンガーに上着をかけようとするすることができる。	○	
D児 2年	・ハンガーを使った方が便利なのがわかる。	○	
	・動画を見比べ、おかしい理由を述べることができる。	○	
E児 2年	・上着は、ハンガーを使わなければならないことがわかる。	○	
	・動画のおかしい場面に気づくことができる。	◎	
F児 2年	・ハンガーの使い方がわかる。	○	
	・ハンガーに上着をかけようとするすることができる。	○	

これらの結果から、児童それぞれの目標を概ね達成できており、達成できなかった児童はいなかった。個別の児童の発達段階等にあわせたきめ細かい指導に今後も留意していきたい。

2) 授業における評価について

2つの単元「みだしなみ名人になろう」、「ハンガー名人になろう」におけるSシートを用いた授業評価は以下の通りである（表6、表7）。それぞれの評価項目に対して「◎：良かった」「○：概ね良かった」「△：改善が必要」の3段階で評価した。

これらの結果から、概ね授業評価は良好であったものの、授業実施前後の児童の変容に関する情報を丁寧に集めたり、授業中に「比較」を行うことや、児童が良い、悪いを「判断」する時の児童の表現方法、意思伝達の方法について、さらなる工夫を図るとともに、個々の児童に応じた支援の充実を検討することも必要であると考えます。

表6 単元①「みだしなみ名人になろう」の授業評価

評価内容			チェック	特記	
授業の内容・構成	児童生徒の実態を踏まえた本時のねらい・目標設定		◎		
	学習内容	興味関心(意欲、動機付け等)	◎		
		課題意識(葛藤、危機、必然、責任感等)	◎		
		振り返り(成就感、期待感等)	◎		
		思考、比較、判断等	◎		
		表現、意思伝達等	○	本当に選んでいるのか？と思わせる児童もいた。	
		他学習・場面等との関連	◎		
		難易度	◎		
	授業構成	学習量、活動量、時間配分	◎		
		発展性、まとめ	◎		
環境設定・教材教具	学習環境	空間、配置、雰囲気等	◎		
	教材・提示	教材内容	興味関心、難易度、自由度	◎	
			対象、操作性、量	◎	
		提示方法	板書、ICT活用等	◎	
	学習集団の規模や編成		◎		
教師の姿勢	子どもへの配慮	健康面、安全面、雰囲気、言葉遣い、気付き等	◎		
	指示・説明等の内容・方法	口頭、教材、モデル等	○	言葉のチョイスを考える必要あり	
	指導のバランス、タイミング、内容	全体理解、個別対応等	○	より個に応じた対応を	
	気付きや思考、イメージ化を促す働きかけ		◎		
	教師間の連携		◎		
	子どもの理解、努力、態度、成果等の評価(賞賛等)		◎		
	※チェック基準【◎:よかった ○:概ねよかった △:改善が必要 -:なし】				

表7 単元②「ハンガー名人になろう」の授業評価

評価内容			チェック	特記	
授業の内容・構成	児童生徒の実態を踏まえた本時のねらい・目標設定		○	普段の様子の確認が不十分	
	学習内容	興味関心(意欲、動機付け等)	○		
		課題意識(葛藤、危機、必然、責任感等)	◎		
		振り返り(成就感、期待感等)	○		
		思考、比較、判断等	◎		
		表現、意思伝達等	○	全員は悪いところに気づくのは難しい	
		他学習・場面等との関連	◎		
		難易度	◎		
	授業構成	学習量、活動量、時間配分	◎		
		発展性、まとめ	◎		
環境設定・教材教具	学習環境	空間、配置、雰囲気等	◎		
	教材・提示	教材内容	興味関心、難易度、自由度	◎	
			対象、操作性、量	△	手でハンガーを持ってかけることが難しい児童多い。机が必要
		提示方法	板書、ICT活用等	◎	
	学習集団の規模や編成		◎		
教師の姿勢	子どもへの配慮	健康面、安全面、雰囲気、言葉遣い、気付き等	○		
	指示・説明等の内容・方法	口頭、教材、モデル等	○		
	指導のバランス、タイミング、内容	全体理解、個別対応等	◎		
	気付きや思考、イメージ化を促す働きかけ		○		
	教師間の連携		◎		
	子どもの理解、努力、態度、成果等の評価(賞賛等)		◎		
※チェック基準【◎:よかった ○:概ねよかった △:改善が必要 -:なし】					

3) 授業実施前後の児童の様子の変化

単元①「みだしなみ名人になろう」と単元②「ハンガー名人になろう」の授業実施前後における児童の様子の変化を表8に示す。

これによると、いずれの授業においても、授業前の日常生活や日常生活の指導(朝の会・帰りの会など)では定着していなかった「みだしなみを整えよ

うとする姿」が「ハンガーを使って自分が脱いだあとの衣類を管理しようとする姿」として見られるようになった。こうした児童の姿の変容は、「生活科」という教科で、日常生活における「みだしなみ」「ハンガーの使い方」という題材を取り上げ、深く学習したことによって得られた変容であると考える。

表8 授業実施前後の児童の様子の変化

	授業前の児童の様子	授業後の児童の様子
みだしなみ	・着替え後や排泄後に自分からみだしなみを整えることは少なく、教師からの声かけなど促しが必要だった。	・着替え後や排泄後に自分からみだしなみを整えようとする姿が増えた。朝の会や帰りの会でのみだしなみチェックの前に自分から整える様子が見られるようになった。
ハンガー	・ほぼ、自分からハンガーにかけるとは皆無。棚にそのまま入れるか、教師と一緒にかけたり、教師がかけたりしていた。裏返っていてもそのままにしている。	・登校時などにジャンパー等を脱いだ後、自分からハンガーに丁寧に掛けたり、ハンガーから落ちたジャンパーを拾って掛け直そうとしたりする様子が見られるようになった。着用しやすいように、裏返ったものを、元に戻す様子が見られるようになった。

5. 共同研究者（大学教員）からのコメント

本実践に関して、竹中からは、授業づくりにおいては、児童の実態から少し高いところに目標を設定する必要があるという指摘があった。また、既習している知識や技能を活用、工夫しながら課題を解決したり、新しい知識や技能を習得したりしていく必要があり、同化―調節をスムーズに行うことが肝要であるとの指摘もあった。

また、八幡からは、「日常生活の課題に焦点化して「生活科」で取り上げ、なぜ問題なのか、どうすればよいのか、といった「理由づけ」や「課題解決の方法」とともに学んだからこそ、日常生活における行動変容につながった。本授業は、児童が「主体的」に学ぶ仕掛けや魅力的な言葉による「対話的」活動が満載であり、このような授業の積み重ねにより、よりよく生活しよう、よりよく環境にかかわろう、とする「学びに向かう力」が育まれることを期待する」とのコメントがあった。

まとめ

1) 成果と課題

平成29年度における生活科の授業実践において有効であった工夫点を活かした授業開発を行った。

「〇〇名人」というめあてがはっきりしていること、前時の振り返りをふまえ、課題を提示したことで、意欲や興味を持って、主体的に学習に臨むことができた。また、写真やイラストの比較や表情のカードがあったことで、自分の考えや気持ちを表出しやすかったと考える。友だちが発表する様子を見ながら、正しいやり方などに気づき、それを真似ること

で自身の知識や技能を習得する様子が見られた。

課題としては、児童の実態差がある中で、一人一人の実態をしっかりとつかみ、それぞれにあった課題設定の仕方や教材、発問の工夫などをこれからも考えていかなければならないという点である。授業後に、児童が活用したくなるような手立てを用いて授業することが、日頃の生活への汎用につながると考える。

2) 本校での今後の生活科

小学部において生活科に取り組んでいくにあたり、今後、検討していくべき課題を以下に示す。

- ・学年(組)によるねらい及び中学部とのつながりの整理
- ・どの場面(学校生活全般なのか、教科等を合わせた指導なのか、特設した時間なのか)で扱い、指導していくことが効果的なのかについての検証
- ・授業で取り扱ったことを学校生活全般でいかに汎用させていくか。また、家庭生活の中でも汎用できるようにするか。
- ・他教科等とどのように関連づけていくか。教科横断的な視点を持った授業構成の検討。

小学部段階における生活科は、他教科や活動などと幅広く関連があり、子供の育ちの中心となる教科と言える。生活科を中心とした教育課程を編成することで、子ども達の将来の自立と社会参加に向けた礎を築くことができると考える。

子どもたちは、生活に必要な知識・技能を獲得して、それらを活用できるようにならなければならない。知識・技能を習得する過程で、自身のこれまでの経験や学びをもとに、試行錯誤を繰り返しながら、身につけていくことが汎用的スキルを高めていくことにつながると考える。

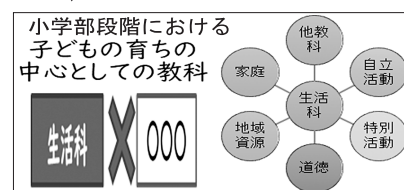


図2 生活科関連図

参考文献

- 1) 文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編(小学部・中学部)』開隆堂(平成30年3月)
- 2) 小田貴史, 赤崎真琴, 北川裕絵, 竹中伸夫, 八幡彩子『特別支援学校小学部における生活科授業実践』熊本大学教育実践研究 第36号(平成31年2月)
- 3) 熊本大学教育学部附属特別支援学校 平成28年度研究紀要 第32集